

がくしゅういんけんどうぶが  
学習院 剣道部 部歌

高等科学生・秋田 一季、戸田 忠英 作詞

- 一 桜は春を飾れども 長恨若き胸に湧き  
はる おし かな ちやうじんわが むね わ
  - 春の驕りをよそにして 武道の誉磨かんか  
たま あせ しの びどう きたえ かいなわ かいな
  - 二 玉なす汗を忍びつつ 鍛へし腕吾が腕  
せいぎ まも はじ し われ まこと ものゐら
  - 正義を守り恥を知る 吾は誠の武士よ  
あきじやうけん とうま ころえ ひやう みね じやう
  - 三 秋城北の鬨の声 芙蓉の峰に轟きぬ  
あきじやうけん ほう ほう ぶつこうとわ っ
  - ああ仇敵を屠らずば 雄魂永遠に尽きざらむ  
しもぶ くだ あ ま ぶた へげ けんし ん
  - 四 霜踏み砕き明けぬ間を 来りて励む剣士かな  
はだつん びくひう われら いき いか
  - 肌劈ざかん朔風も 吾等が意気を如何にせん  
そくりつ いくせいそう れきし ひか ぶどうじやう
  - 五 創立ここに幾星霜 歴史ぞ深き武道場  
あ あ からだ じじろ そくく はえ かき
  - 嗚呼この身体この心 祖国の栄を飾らんか  
そくく はえ かき
- 祖国の栄を飾らんか

学習院剣道部は、明治十二年(1879)に剣道が正課として取入れられたことに発し、戦後の武道廃止の時代を経て、昭和二十八年(1953)に高等科で復興され、その後大学、高等科、中等科、初等科、そして女子部と各科剣道部が発足し、学習院の基本理念である一貫教育を初等科より大学生まで各科を通して実践している唯一の運動部である。先年に創部百二十周年を迎えた。

部歌は昭和十二年(1937)、先輩達の現役支援組織「剣桜会」の設立を機に、高等科三年の秋田、戸田両先輩が作詞した。その歌詞には四季に亘る剣道の修練が読み込まれており、現在まで歌い続けられている。秋田先輩は戦前戦後半世紀にわたって剣桜会会長として剣道部の指導に当たられた。

明治四十一年(1908)に田口にできた柔剣道場は、嘉納治五郎の設計した武道場である部員に愛されてきたが、昭和五十三年(1978)の創立百周年の際に取り壊され、現在では北グラウンドに新たな武道場が建設され、活発な部活動の場になっている。